

(様式第 10)

府病成 1382 号  
平成 27 年 10 月 13 日

厚生労働大臣

殿

地方独立行政法人 大阪府立病院機構  
開設者名 理事長 遠山 正彌

大阪府立成人病センターの業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 の規定に基づき、平成 26 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒558-8558 大阪市住吉区万代東 3 丁目 1 番 5 6 号
氏 名	地方独立行政法人 大阪府立病院機構

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪府立成人病センター
-------------------------------

3 所在の場所

〒537-8511 大阪府大阪市東成区中道 1 丁目 3 番 3 号	電話(06) 6972-1181
------------------------------------	------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜
<input checked="" type="radio"/> 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等 1 消化器内科 2 呼吸器内科 3 血液内科 4 腫瘍内科 5 循環器内科 6 脳神経内科 7 内分泌代謝内科	
診療実績	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	有 ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 1 消化器外科 2 呼吸器外科 3 乳腺外科 4 心臓血管外科 5 形成外科	
診療実績	

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

1精神科	2小児科	3整形外科	4脳神経外科	5皮膚科	6泌尿器科	7産婦人科
8産科	9婦人科	10眼科	11耳鼻咽喉科	12放射線科	13放射線診断科	
14放射線治療科	15麻酔科	16救急科				

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有 ・ 無					
歯科と組み合わせた診療科名						
1	2	3	4	5	6	7
歯科の診療体制						

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 臨床検査科 2 病理診断科 3 リハビリテーション科
------------------------------

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
床	床	床	床	500床	500床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成27年10月 1日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	127人	67人	170.2人	看 護 補 助 者	44人	診 療 エ ッ ク ス 線 技 師	人
歯 科 医 師	人	4人	0.3人	理 学 療 法 士	5人	臨 床 検 査 技 師	59人
薬 剤 師	31人	6人	34.8人	作 業 療 法 士	2人	検 査 衛 生 検 査 技 師	1人
保 健 師	1人	人	1人	視 能 訓 練 士	人	そ の 他	5人
助 産 師	人	人	人	義 肢 装 具 士	人	あ ん 摩 マ ッ サ ー ジ 指 圧 師	人
看 護 師	510人	26人	527.3人	臨 床 工 学 士	5人	医 療 社 会 事 業 従 事 者	5人
准 看 護 師	1人	8人	6.6人	栄 養 士	人	そ の 他 の 技 術 員	3人
歯 科 衛 生 士	人	1人	0.8人	歯 科 技 工 士	人	事 務 職 員	113人
管 理 栄 養 士	3人	3人	5.1人	診 療 放 射 線 技 師	44人	そ の 他 の 職 員	147人

- (注) 1 申請前半年以内のある月の初めの日における員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従業者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成27年10月 1日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	11人	眼 科 専 門 医	人
外 科 専 門 医	16人	耳 鼻 咽 喉 科 専 門 医	5人
精 神 科 専 門 医	1人	放 射 線 科 専 門 医	8人
小 児 科 専 門 医	人	脳 神 経 外 科 専 門 医	2人
皮 膚 科 専 門 医	人	整 形 外 科 専 門 医	5人
泌 尿 器 科 専 門 医	1人	麻 酔 科 専 門 医	10人
産 婦 人 科 専 門 医	7人	救 急 科 専 門 医	人
		合 計	66人

- (注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従業者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯 科 等 以 外	歯 科 等	合 計
1日当たり平均入院患者数	418.1人	0人	418.1人
1日当たり平均外来患者数	1,062.5人	9.4人	1,071.9人
1日当たり平均調剤数	入院 730.7 剤	外来 96.5 剤	
必要医師数			74.03人
必要歯科医師数			0.47人
必要薬剤師数			14人
必要(准)看護師数			245人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。  
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。  
 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除し

た数を記入すること。

4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

### 9 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
集中治療室	180.06m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	病床数	8床	心電計	有・無
			人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無
			その他の救急蘇生装置	有・無	ペースメーカー	有・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 92.40m <sup>2</sup> [移動式の場合] 台数 4台		病床数	6床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 73.44m <sup>2</sup> [共用室の場合] 共用する室名 治験薬管理室					
化学検査室	141.60m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 全自動生化学免疫分析装置、全自動免疫測定装置 全自動血液凝固分析システム			
細菌検査室	48.00m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 全自動細菌検査システム 全自動血液培養検査装置			
病理検査室	298.70 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 光学顕微鏡、バーチャルスライド投影装置 自動染色装置、自動免疫染色装置			
病理解剖室	50.66 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 解剖台、冷蔵庫			
研究室	4,267.93m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 質量分析装置、セルソーター 次世代DNAシーケンサー			
講義室	310.74 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数	1 室	収容定員	167 人
図書室	272.95 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数	8 室	蔵書数	35,000 冊程度

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

### 10 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成26年4月1日～平成27年3月31日	
紹介率	98.1%	逆紹介率	181.2%
算出根拠	A: 紹介患者の数	6,598 人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	12,675 人	
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	264 人	
	D: 初診の患者の数	6,994 人	

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
泌尿生殖器腫瘍後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節廓清術	7人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
パクリタキセル静脈内投与及びカルボプラチン腹腔内投与の併用療法	3人
パクリタキセル腹腔内投与及び静脈内投与並びにS-1内服併用療法	11人
術後のホルモン療法及びS-1内服投与の併用療法	0人
S-1内服投与、オキサリプラチン静脈内投与及びパクリタキセル腹腔内投与の併用療法	9人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 3 その他の高度の医療

医療技術名	胃癌微小腹膜転移検出を目的とした蛍光腹腔鏡検査	取扱患者数	46人
進行胃癌の微小な腹膜転移を検出するために、我々が開発した5-ALAを用いた蛍光腹腔鏡検査を導入し臨床応用中である。			
医療技術名	直腸がんに対するICG/赤外線カメラを用いたセンチネルリンパ節ナビゲーション手術	取扱患者数	22人
下部直腸がん症例に対してICG/赤外線カメラによる側方リンパ節転移のセンチネルリンパ節生検を行い、その情報に基づいて至適郭清範囲を決定する。			
医療技術名	門脈腫瘍栓陽性肝癌に対する定位照射	取扱患者数	2人
高度門脈侵襲を伴う肝細胞癌に対して、術梅雨の癌細胞の散布を予防する目的で術前に門脈腫瘍栓部に定位照射を行う			
医療技術名	胆道癌に対する術前化学放射線療法	取扱患者数	4人
根治切除率が低く、再発率が高い胆道癌に対して、術前化学放射線療法を行い、切除率や治療成績を改善する。			
医療技術名	膵がんに対する術前化学放射線療法	取扱患者数	51人
進行膵がんに対して術前にゲムシタビンをベースとした化学放射線療法を行うことで予後を改善する。			
医療技術名	食道癌に対するシムバイオテイクス併用化学療法	取扱患者数	25人
食道癌の術前化学療法時にシムバイオテイクスを併用することで骨髄抑制、消化器毒性を軽減する。			
医療技術名	肺腺癌に対する捺印細胞診による悪性度分類の開発	取扱患者数	30人
小型肺腺癌の縮小手術の適応を決めるため、術中にかん細胞の悪性度診断を細胞診にて行う検査の開発			
医療技術名	抗がん剤感受性試験や遺伝子検査を用いた肺癌化学療法	取扱患者数	80人
手術時の肺癌組織を用いて抗がん剤感受性を評価する技術の開発とそのデータに基づいたテーラーメイドな術後抗がん剤治療の臨床応用			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 3 その他の高度の医療

医療技術名	新規抗がん剤を用いたより強力な術前化学療法および化学放射線療法	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 アバスチンなど新しい抗がん剤を用いた術前導入療法の開発			
医療技術名	当院独自の診療技術を用いた肝腫瘍に対する経皮的ラジオ波治療(RFA)	取扱患者数	100人
当該医療技術の概要 多針同時穿刺、同時モニター下でのバイポーラRFA、治療前後の画像を3Dでfusionさせる方法(volume-fusion imaging, VFI)を用いてのRFA治療効果判定など、当院独自の診療技術を用いた治療効果の高いRFA			
医療技術名	早期膵癌発見のための膵精密超音波検査	取扱患者数	1472人
当該医療技術の概要 早期の膵癌を発見するために、消化管ガスの影響を減弱させることで、超音波の診断精度を向上させた検査			
医療技術名	広範な食道ESD	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要 広範な病変を切除すると術後狭窄が必発であるが、当科では狭窄予防にステロイド剤の局所注入を行い、広範な食道癌の切除を可能にしている。			
医療技術名	食道がんのPDT	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 化学放射線療法後などに食道がんが遺残した場合、内視鏡切除が困難な場合がある。このような癌に対して、PDTを行っている。			
医療技術名	大腸ESD	取扱患者数	100人
当該医療技術の概要 EMRでは切除が困難な大腸ポリープや大腸癌は従来外科手術が必要であった。しかし、最近そのようなポリープをESDでできるようになった。ESDは技術的に困難であるが、当院では年間100件程度のESDを施行している。			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。



(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	人	・膿疱性乾癬	人
・多発性硬化症	3人	・広範脊柱管狭窄症	3人
・重症筋無力症	6人	・原発性胆汁性肝硬変	14人
・全身性エリテマトーデス	1人	・重症急性膵炎	1人
・スモン	人	・特発性大腿骨頭壊死症	1人
・再生不良性貧血	22人	・混合性結合組織病	人
・サルコイドーシス	1人	・原発性免疫不全症候群	人
・筋萎縮性側索硬化症	人	・特発性間質性肺炎	2人
・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎	1人	・網膜色素変性症	2人
・特発性血小板減少性紫斑病	23人	・プリオン病	人
・結節性動脈周囲炎	人	・肺動脈性肺高血圧症	人
・潰瘍性大腸炎	13人	・神経線維腫症	人
・大動脈炎症候群	3人	・亜急性硬化性全脳炎	人
・ビュルガー病	1人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	人
・天疱瘡	人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	人
・脊髄小脳変性症	9人	・ライソゾーム病	人
・クローン病	人	・副腎白質ジストロフィー	人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	人
・悪性関節リウマチ	人	・脊髄性筋萎縮症	人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	14人	・球脊髄性筋萎縮症	人
・アミロイドーシス	3人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	人
・後縦靭帯骨化症	7人	・肥大型心筋症	25人
・ハンチントン病	人	・拘束型心筋症	1人
・モヤモヤ病(ウイリス動脈輪閉塞症)	2人	・ミトコンドリア病	人
・ウェゲナー肉芽腫症	人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	35人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	人	・黄色靭帯骨化症	人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、AD H分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	1人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 特定機能病院入院基本料(7:1)	・
・ 臨床研修病院入院診療加算	・
・ 診療録管理体制加算1	・
・ 急性期看護補助体制加算(50:1)	・
・ 地域加算 2級地域	・
・ 療養環境加算	・
・ 重症者等療養環境特別加算	・
・ 無菌治療室管理加算1	・
・ 緩和ケア診療加算	・
・ がん診療連携拠点病院加算	・
・ 栄養サポートチーム加算	・
・ 医療安全対策加算1	・
・ 感染防止対策加算1	・
・ 感染防止対策地域連携加算	・
・ 患者サポート体制充実加算	・
・ 褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ 退院調整加算	・
・ 病棟薬剤業務実施加算	・
・ データ提出加算2	・
・ 特定集中治療室管理料3	・
・ ハイケアユニット入院医療管理料1	・
・ 入院時食事療養(I)	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ がん性疼痛緩和指導管理料	・ 抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・ がん患者指導管理料	・ 外来化学療法加算1
・ 外来緩和ケア管理料	・ 無菌製剤処理料1・2
・ 移植後患者指導管理料(造血幹移植後)	・ 脳血管疾患等リハビリテーション料Ⅱ
・ 糖尿病透析予防指導管理料	・ 運動器リハビリテーション料Ⅰ
・ 外来リハビリテーション診療料	・ 呼吸器リハビリテーション料Ⅰ
・ 外来放射線照射診療料	・ がん患者リハビリテーション料
・ ニコチン依存症管理料	・ 組織拡張器による再建術(一連につき)
・ がん治療連携計画策定料1	・ 頭蓋内腫瘍摘出術 脳腫瘍覚醒下マッピング加算
・ がん治療連携管理料	・ 脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術含む)及び脳刺激装置交換術
・ 肝炎インターフェロン治療計画料	・ 脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・ 薬剤管理指導料	・ ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・ 医療機器安全管理料1・2	・ 乳がんセンチネルリンパ節加算1・2
・ 造血器腫瘍遺伝子検査	・ ペースメーカー移植術
・ HPV核酸検出	・ ペースメーカー交換術
・ 検体検査管理加算(Ⅰ)(Ⅳ)	・ 大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・ 心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・ 胃瘻造設術
・ 時間内歩行試験	・ 腹腔鏡下肝切除術
・ 神経学的検査	・ 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・ センチネルリンパ節生検	・ 腹腔鏡下小切開副腎摘出術
・ CT透視下気管支鏡検査加算	・ 腹腔鏡下小切開腎(尿管)悪性腫瘍手術
・ 画像診断管理加算1・2	・ 腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・ CT撮影	・ 腹腔鏡下小切前立腺悪性腫瘍手術
・ MRI撮影	・ 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る)
・ 冠動脈CT撮影加算	・ 輸血管理料Ⅱ
・ 心臓MRI撮影加算	・ 人工肛門・人工膀胱造設術処置加算



(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・ 内視鏡的大腸粘膜下層剥離術	・
・ 抗悪性腫瘍剤感受性検査(HDRA法又はCD-DS T法)	・
・ 超音波骨折治療法	・
・ 腹腔鏡下子宮体がん根治手術	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。  
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	6回／年
剖 検 の 状 況	剖検症例数 20例 / 剖検率 12.20%

## (様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補助元	委託元
独自のin vivoイメージングを利用したマウスのプログラム細胞死の網羅的解析	辻本 賀英	研究所長兼分子細胞生物学部門長	1,500,000	補 委	文部科学省
解糖系をターゲットにした抗がん免疫増強療法の開発	井上 徳光	研究所腫瘍免疫学部門	1,200,000	補 委	文部科学省
先天性GPI欠損症の診療ガイドラインの整備と病態解析及び治療法の開発	井上 徳光	研究所腫瘍免疫学部門	3,000,000	補 委	厚生労働省
先天性GPI欠損症の疾患概念の確立と診断基準の制定: 発達障害・転換を主症状とする新しい疾患	井上 徳光	研究所腫瘍免疫学部門	300,000	補 委	厚生労働省
トル様容体2リガンドの人工設計とアジュバントへの応用	赤澤 隆	研究所腫瘍免疫学部門	1,000,000	補 委	文部科学省
サイトカイン遺伝子の導入による癌微小環境の改変がもたらす免疫療法治療増強効果の検討	赤澤 隆	研究所腫瘍免疫学部門	700,000	補 委	文部科学省
新しい初代癌細胞培養法を用いた、癌における破壊・再生連鎖の解析	井上 正宏	研究所生化学部門	2,400,000	補 委	文部科学省
腫瘍内低酸素応答を利用した癌悪性化制御法の開発	井上 正宏	研究所生化学部門	13,700,000	補 委	文部科学省
初代3次元培養ヒト大腸癌における癌細胞の極性転換機構とがん転移への関与の解明	奥山 裕照	研究所生物学部門	1,300,000	補 委	文部科学省
新しい癌細胞初代培養系(CTOS法)を用いた癌細胞の休眠状態と放射線感受性の検討	遠藤 洋子	研究所生化学部門	1,200,000	補 委	文部科学省
Circulation Tumor Cellsを標的とした新規抗転移治療法の開発	伊藤 和幸	研究所生物学部門	1,400,000	補 委	文部科学省
腫瘍細胞の幹細胞性と転移能の分子メカニズムの解析	笹川 覚	研究所生物学部門	1,000,000	補 委	文部科学省
家族性及び同胞癌症例ゲノム解析による遺伝性癌原因遺伝子の同定とその応用	久木田 洋児	研究所疾患分子遺伝学部門	1,200,000	補 委	文部科学省
糖鎖腫瘍マーカーの探索とその評価	宮本 泰豪	研究所分子生物学部門	1,600,000	補 委	文部科学省
肉腫や癌浸潤の細胞運動におけるContact Inhibition喪失の分子機構	高橋 克仁	研究所病態生理学部門	2,800,000	補 委	文部科学省
肺がんに対するWT1ペプチド免疫療法の開発	東山 聖彦	副院長兼呼吸器外科部長	1,000,000	補 委	厚生労働省
グレリン投与による高齢者食道癌手術の安全性向上に関するランダム化第Ⅱ相試験	矢野 雅彦	副院長兼消化器外科部長	900,000	補 委	厚生労働省
全国的な放射線治療情報の収集、解析、公開のためのweb型データシステムの構築	手島 昭樹	放射線治療科	100,000	補 委	文部科学省

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## (様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補助元又は委託元	補助元又は委託元
がん診療科データベースと Japanese National Cancer Datebase (JNCDB)の運用と他が ん登録の連携	手島 昭樹	放射線治療科	6,800,000	補 委	厚生労働 省
難治性食道がんの治療方針決定 に資する技術開発に関する研究	石原 立	消化器内科	300,000	補 委	厚生労働 省
食道がん化学放射線療法後局所 遺残再発例に対するタロポルフィ リンナトリウム(レザフィリン)及び半 導体レーザー(PDレーザー)を用 いた光線力学両方の医師主導治 験	石原 立	消化器内科	1,950,000	補 委	厚生労働 省
切除可能進行胃癌に対する網膜 切除の意義に関する研究	藤原 義之	消化器外科	1,100,000	補 委	厚生労働 省
腹膜播種を伴う胃がんに対するパ クリタキセル腹腔内投与併用療法 の有用性を評価する第3相臨床 試験	藤原 義之	消化器外科	2,900,000	補 委	厚生労働 省
標準的治療の確立が望まれる難 治性疾患に対する新規治療法の 開発	西村 和郎	泌尿器科	300,000	補 委	厚生労働 省
進行卵巣癌・卵管癌・腹膜癌に対 する・腹腔内化学療法確立のた めの研究	上浦 祥司	婦人科	400,000	補 委	厚生労働 省
ミトコンドリアDループDNA/RN Aの機能解析	富田 裕彦	病理・細胞診断科	1,400,000	補 委	文部科学 省
多施設における原発性骨腫 瘍の臨床病理学的検討	富田 裕彦	病理・細胞診断科	100,000	補 委	文部科学 省
成人固形がんに対する標準治療 確立のための基盤研究	荒木 信人	整形外科	300,000	補 委	厚生労働 省
高悪性度骨軟部腫瘍に対する標 準治療確立のための研究	荒木 信人	整形外科	550,000	補 委	厚生労働 省
レーザー消化管内視鏡治療 装置の開発	上堂 文也	消化管内科	750,000	補 委	厚生労働 省
ガレクチン-3の発現とプロモー ター領域メチル化の解析による甲 状腺癌機構の解明	喜井 正士	耳鼻咽喉科	1,500,000	補 委	文部科学 省
高齢がんを対象とした臨床研究 の標準化とその普及に関する研究	岡見 次郎	呼吸器外科	1,000,000	補 委	厚生労働 省
直腸癌側方骨盤リンパ節転移の 術前診断の妥当性に関する観察 研究	能浦 真吾	消化器外科	500,000	補 委	厚生労働 省
大腸がん肝転移切除例に適した 新規抗がん剤を用いた術後補助 化学療法	能浦 真吾	消化器外科	500,000	補 委	厚生労働 省
腭液中エクソソーム解析による膵 癌に対する術前放射線併用化学 療法の効果予測の検討	高橋 秀典	消化器外科	1,700,000	補 委	文部科学 省
胆道炎症によるIL-6/TGF-βクロ ストークから癌と周囲環境に与え る変化	小林 省吾	消化器外科	1,000,000	補 委	文部科学 省

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
癌細胞由来エクソソームによる腫瘍血管新生および浸潤転移機構の解明	小林 省吾	消化器外科	100,000	補 委	文部科学省
臨床膵島移植の成績を改善するための次世代ストラテジーを用いた包括的研究	小林 省吾	消化器外科	100,000	補 委	文部科学省
膵癌の癌細胞-癌間質におけるmicroRNA相互作用の解明と薬剤耐性克服法の構築	小林 省吾	消化器外科	100,000	補 委	文部科学省
細胞内シグナル伝達とNon-coding RNAによる肝再生制御機構の解明	小林 省吾	消化器外科	80,000	補 委	文部科学省
肝移植における抗ドナー特異抗体産生意義の解明と個別化免疫療法の探求	小林 省吾	消化器外科	100,000	補 委	文部科学省
慢性ウイルス性肝炎の病態把握(重症度・治療介入時期・治療効果判定・予後予測)のための非侵襲的病態診断アルゴリズムの確立	小林 省吾	消化器外科	60,000	補 委	厚生労働省
アンメットメディカルニーズにおける抗がん薬のPK/PDに基づく最適化医療の実施	井岡 達也	消化器検診科	1,000,000	補 委	厚生労働省
がん患者に対する血管新生阻害薬による新毒性の評価および分子機構の解明	塩山 渉	循環器内科	1,500,000	補 委	文部科学省
膠芽腫におけるmicrogliaの役割とそのin vivo MRのイメージ	木下 学	脳神経外科	1,400,000	補 委	文部科学省
悪性神経膠腫に対する、蛍光・PET dual tracerの開発	木下 学	脳神経外科	200,000	補 委	文部科学省
科学的根拠に基づくがん検診法の有効性評価に関する研究	中山 富雄	がん予防情報センター	200,000	補 委	厚生労働省
電子たばこにおける成分分析の手法の開発に関する研究	田淵 貴大	がん予防情報センター	4,500,000	補 委	厚生労働省
たばこ規制枠組み条約を踏まえたたばこ対策に係る総合的研究	田淵 貴大	がん予防情報センター	450,000	補 委	厚生労働省
都道府県がん登録データの全国集計と既存がん統計の資料の活用によるがん及びがん診療走行把握の研究	井岡 亜希子	がん予防情報センター	600,000	補 委	厚生労働省
印刷労働者にみられる胆管癌発症の疫学的解明と原因追求	伊藤 ゆり	がん予防情報センター	500,000	補 委	厚生労働省
がん対策推進基本計画の効果検証と目標設定に関する研究	伊藤 ゆり	がん予防情報センター	100,000	補 委	厚生労働省
生存時間解析における樹木構造接近法によるがん患者の予後予測モデルの検討	伊藤 ゆり	がん予防情報センター	1,200,000	補 委	文部科学省
地理的剥奪指標に基づく近隣健康格差の分析	伊藤 ゆり	がん予防情報センター	430,000	補 委	文部科学省

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。



(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

## (1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

NO	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名	巻	号	開始頁	終了頁	発行年月	
									西暦	月
1	Endo H	研)生化学部門	Dormancy of Cancer Cells with Suppression of AKT Activity Contributes to Survival in Chronic Hypoxia	PLoS One	9	6	e98858		2014	6
2	Kimura M	研)生化学部門	Analysis of ERBB Ligand-Induced Resistance Mechanism to Crizotinib by Primary Culture of Lung Adenocarcinoma with EML4-ALK Fusion Gene	J Thorac Oncol	10	3	527	530	2015	3
3	Nakajima A	研)生化学部門	Radiation sensitivity assay with a panel of patient-derived spheroids of small cell carcinoma of the cervix	Int J Cancer			Online		2014	11 (Epub)
4	Tanaka-Okamoto M	研)生化学部門	Genetic ablation of afadin causes mislocalization and deformation of Paneth cells in the mouse small intestinal epithelium	PLoS One	9	10	e110549		2014	10
5	Yoshida T	研)生化学部門	High-dose chemotherapeutics of intravesical chemotherapy rapidly induce mitochondrial dysfunction in bladder cancer-derived spheroids	Cancer Sci			Online		2014	11
6	Yabu M	研)分子生物学	Precise structural analysis of O-linked oligosaccharides in human serum.	Glycobiology	24	6	542	553	2014	6
7	Hamakawa T	研)疾患分子遺伝学部門	Monitoring gastric cancer progression with circulating tumour DNA	British Journal of Cancer			DOI:10.1038/bjc.2014.60		2014	12
8	Kanemoto M	研)疾患分子遺伝学部門	Prognostic prediction of glioblastoma by quantitative assessment of the methylation status of the entire MGMT promoter region	BMC Cancer	14		641	641	2014	8
9	Wakamatsu T	研)生物学部門	Deflection of VEGF action by SS18-SSX and composite VEGF- and CXCR4-targeted therapy in synovial sarcoma	Cancer Science	105	9	1124	1134	2014	6
10	Akazawa T	研)腫瘍免疫学部門	Development of a dendritic cell-targeting lipopeptide as an immunoadjuvant that inhibits tumor growth without inducing local inflammation.	Int. J. Cancer	135	12	2847	2856	2014	12
11	Fujii M	消化管内科	ENDOSCOPIC FEATURES OF EARLY STAGE GASTRIC ADENOCARCINOMA OF FUNDIC GLAND TYPE (CHIEF CELL PREDOMINANT TYPE): A CASE REPORT	Case Reports in Clinical Pathology	2		17	22	2014	9
12	Kanesaka T	消化管内科	Absent microsurface pattern is characteristic of early gastric cancer of undifferentiated type: magnifying endoscopy with narrow-band imaging.	Gastrointest Endosc	80	6	1194	1198	2014	10
13	Nagai K	消化管内科	Endoscopic optical diagnosis provides high diagnostic accuracy of esophageal squamous cell carcinoma	BMC Gastroenterology						
14	Uedo N	消化管内科	Underwater endoscopic mucosal resection of a large depressed adenoma in the ileum.	Endoscopy	46	Suppl 1	E336	E337	2014	8
15	Yamasaki Y	消化管内科	Endoscopic mucosal resection of early stage colon neuroendocrine carcinoma	BMJ case rep			on line		2015	3
16	Yamashina T	消化管内科	Diagnostic Features of Sessile Serrated Adenoma/Polyps on Magnifying Narrow Band Imaging: A Prospective Study of Diagnostic Accuracy.	J Gastroenterol Hepatol.			Epub ahead of print		2014	8
17	Yamashina T	消化管内科	Long-term survival after endoscopic resection for early gastric cancer in the remnant stomach: comparison with radical surgery	Annals of Gastroenterology	27		Epub		2014	8
18	Katayama K	肝胆膵内科	Effect of zinc on liver cirrhosis with hyperammonemia: A preliminary randomized, placebo-controlled double-blind trial.	Nutrition	30		1409	1414	2014	11
19	Katayama K	肝胆膵内科	The computed tomography during hepatic arteriography pattern may predict hepatocellular carcinoma recurrence following transarterial chemoembolization.	Hepatology Research	44		E455	E463	2014	12
20	Ohkawa K	肝胆膵内科	Factors Related to Shift from Hepatic Borderline Lesion to Overt HCC Diagnosed by CT.	Hepatogastroenterology	134	61	1680	1687	2014	9
21	Sakakibara M	肝胆膵内科	Three-dimensional registration of images obtained before and after radiofrequency ablation of hepatocellular carcinoma to assess treatment adequacy.	American Journal of Roentgenology	202	5	W487	W495	2014	5
22	Takada R	肝胆膵内科	Duodenal Hemorrhage from Pancreatic Cancer Infiltration Controlled through Combination Therapy with Gemcitabine and S-1	Case Rep Gastroenterol	8		221	226	2014	6

小計  
10小計  
10

NO	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名	巻	号	開始頁	終了頁	発行年月	
									西暦	月
23	Imamura F	呼吸器内科	Novel chemoradiotherapy with concomitant boost thoracic radiation and concurrent cisplatin and vinorelbine for stage IIIA and IIIB non-small-cell lung cancer.	Clin Lung Cancer	15	4	281	286	2014	7
24	Kimura M	呼吸器内科	Prognostic impact of cancer cachexia in patients with advanced non-small cell lung cancer.	Support Care Cancer	29				2014	11
25	Kimura M	呼吸器内科	Analysis of ERBB Ligand-Induced Resistance Mechanism to Crizotinib by Primary Culture of Lung Adenocarcinoma with EML4-ALK Fusion Gene.	J Thorac Onco	10	3	527	530	2015	3
26	Okuyama T	呼吸器内科	Porous Diaphragm Syndrome with Repeated Rapid Accumulation of Pleural Effusion	Internal medicine	53		1075	1077	2014	5
27	Fujino S	消化器外科	Single-incision laparoscopic cecectomy for low-grade appendiceal mucinous neoplasm after laparoscopic rectectomy.	World J Gastrointest Surg	6	5	84	87	2014	5
28	Fujino S	消化器外科	New enhanced and effective method for staging cancer to detect lymph nodes after fat-dissociation.	Oncol Rep	32	3	922	926	2014	9
29	Fujino S	消化器外科	Primary osteosarcoma of the heart with long-term survival: A case report of laparoscopic resection of a metastatic sarcoma in the intestine.	Oncol Lett	8	4	1599	1602	2014	10
30	Kanzaki R	消化器外科	Boerhaave's syndrome in a tracheoesophageal speaker: report of a case.	Surg Today	44	8	1569	1572	2014	8
31	Kishi K	消化器外科	Diagnostic Laparoscopy with 5-Aminolevulinic-Acid-Mediated Photodynamic Diagnosis Enhances the Detection of Peritoneal Micrometastases in Advanced Gastric Cancer.	Oncology	87	5	257	265	2014	8
32	Kobayashi S	消化器外科	Phase I study of adjuvant gemcitabine or S-1 in patients with biliary tract cancers undergoing major hepatectomy: KHBO1003 Study	Cancer Chemother Pharmacol	74	4	699	709	2014	10
33	Marubashi S	消化器外科	Navigation Guidance Using Polyglycolic Acid Felt in Pure Laparoscopic Partial Hepatectomy.	Surg Innov			e-pub		2014	8
34	Marubashi S	消化器外科	Analysis of Recurrence Patterns After Anatomical or Non-anatomical Resection for Hepatocellular Carcinoma.	Ann Surg Oncol			e-pub		2014	11
35	Matsuda Y	消化器外科	Solitary mediastinal lymph node recurrence after curative resection of colon cancer.	World J Gastrointest Surg	6	8	164	168	2014	8
36	Miyoshi N	消化器外科	MACC1 expression levels as a novel prognostic marker for colorectal cancer	Oncology Letters	8	5	2305	2309	2014	8
37	Miyoshi N	消化器外科	Dual-incision laparoscopic surgery for right-sided colon cancer	American Journal of Digestive Disease	1	2	143	147	2014	12
38	Motoori M	消化器外科	Tissue factor predicts response to chemotherapy in esophageal cancer	J Surg Res	191	1	99	105	2014	9
39	Takahashi H	消化器外科	Preoperative gemcitabine-based chemoradiation therapy for pancreatic ductal adenocarcinoma of the body and tail: Impact of splenic vessels involvement on operative outcome and pattern of recurrence.	Surgery	157	3	484	495	2015	3
40	Wada Y	消化器外科	Comparison of surgical techniques for stoma closure: a retrospective study of purse-string skin closure versus conventional skin closure following ileostomy and colostomy reversal	Molecular and Clinical Oncology	3	3	619	622	2015	2
41	Fujiwara A	呼吸器外科	Granulocyte-colony stimulating factor (G-CSF) producing malignant pleural mesothelioma: Report of a case.	Thoracic Cancer	6	1	105	109	2015	1
42	Ibuki Y	呼吸器外科	Primary papillary carcinoma of the thymus with invasion into subcutaneous tissue through the sternum.	J Cardiothorac Surg	9		77	79	2014	5
43	Kanou T	呼吸器外科	Prognosis associated with surgery for non-small cell lung cancer and synchronous brain metastasis.	Surg Today	44	7	1321	1327	2014	7
44	Kanou T	呼吸器外科	Prognostic factors in patients with postoperative brain recurrence from completely resected non-small cell lung cancer.	Thoracic Cancer	6	1	38	42	2015	1
45	Ishitobi M	乳腺・内分泌外科	Regional lymphatic recurrence after salvage surgery for ipsilateral breast tumor recurrence of breast cancer without local treatment for regional lymphatic basin.	J Surg Oncol.	Epub ahead of print	Epub ahead of print	Epub ahead of print	Epub ahead of print	2014	5

小計  
10小計  
10

NO	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名	巻	号	開始頁	終了頁	発行年月	
									西暦	月
46	Ishitobi M	乳腺・内分泌外科	Treatment sequence of aromatase inhibitors and radiotherapy and long-term outcomes of breast cancer patients.	Anticancer Res.	34	8	4311	4314	2014	8
47	Tamaki Y	乳腺・内分泌外科	Clinical usefulness of one-step nucleic acid amplification assay in the new era of sentinel lymph node biopsy for breast cancer.	Breast Cancer Management	4	1	7	15	2015	1
48	Kinoshita M	脳神経外科	Different spatial distribution between GCB and non-GCB primary central nervous system lymphoma revealed by MR group analysis.	Neuro-oncology	16	5	728	734	2014	5
49	Kinoshita M	脳神経外科	Development of non-tissue adherent neurosurgical patty and an ex vivo assay system for adherent characteristic evaluation.	J Neurosurg	122	5	1180	1184	2015	5
50	Kinoshita M	脳神経外科	Pituitary-targeted dynamic contrast-enhanced multi-slice computed tomography for detecting magnetic resonance imaging-occult functional pituitary micro-adenoma.	AJNR Am J Neuroradiol	36	5	904	908	2015	5
51	Takano K	脳神経外科	A reminder about the trigeminocardiac reflex in surgeries at the posterior third of the falx cerebri	Interdisciplinary Neurosurgery: Advanced Techniques and Case Management	1	3	47	49	2014	9
52	Araki N	整形外科	New practical approach against sarcoma	Journal of Orthopaedic Science	19	3	377	378	2014	4
53	Oshima K	整形外科	Comparison of the Japanese orthopaedic association score and the Japanese orthopaedic association cervical myelopathy evaluation questionnaire scores: time-dependent changes in patients with cervical spondylotic myelopathy and posterior longitudinal ligament.	Asian Spine J.	9	1	47	53	2015	2
54	Nishimura K	泌尿器科	Current status of robotic surgery in Japan.	Korean J Urol	56	3	170	178	2015	3
55	Yamaguchi Y	泌尿器科	A single-center study on predicting outcomes of primary androgen deprivation therapy for prostate cancer using the Japan Cancer of the Prostate Risk Assessment (J-CAPRA) score	JJCO(Japanese Journal of Clinical Oncology)	45	2	197	201	2015	2
56	Otani K	放射線治療科	Steroid treatment increases the recurrence of radiation-induced organizing pneumonia after breast-conserving therapy	(On line) Cancer Medicine	3	4	947	953	2014	8
57	Hirata T	放射線治療科	Histopathological effects of preoperative chemoradiotherapy for pancreatic cancer: An analysis for the impact of radiation and gemcitabine doses.	Radiotherapy and Oncology	141	1	122	127	2015	1
58	Kanayama N	放射線治療科	Definitive radiotherapy for primary vaginal cancer: correlation between treatment patterns and recurrence rate	Journal of Radiation Research	56	2	346	353	2015	3
59	Kawaguchi Y	放射線治療科	Treatment outcomes of external-beam radiotherapy for squamous cell carcinoma of the base of the tongue.	Int J Clin Oncol.					2015	3
60	Morimoto M	放射線治療科	Comparison of acute and subacute genitourinary and gastrointestinal adverse events of radiotherapy for prostate cancer using intensity-modulated radiation therapy, three-dimensional conformal radiation therapy, permanent implant brachytherapy and high-dose-rate brachytherapy	(電子版) Tumori	100		265	271	2014	8
61	Shirai K	放射線治療科	Phantom and Clinical Study of Differences in Cone Beam Computed Tomographic Registration When Aligned to Maximum and Average Intensity Projection.	Int J Radiation Oncol Biol Phys.	88	1	189	194	2014	1
62	Kawada N	病理・細胞診断科	Alteration of strain ratio evaluated by transabdominal ultrasound elastography may predict the efficacy of preoperative chemoradiation performed for pancreatic ductal carcinoma: preliminary results.	Hepatogastroenterology	130		480	483	2014	5
63	Kawada N	病理・細胞診断科	Predictors of malignancy in branch duct intraductal papillary mucinous neoplasm of the pancreas.	JOP	15	5	459	464	2014	9
64	Kawada N	病理・細胞診断科	Potential use of point shear wave elastography for the pancreas: a single center prospective study.	Eur J Radiol.	83		620	624	2014	4
65	Song M	病理・細胞診断科	Hepatoma-derived growth factor expression as a prognostic marker in cervical cancer	World Journal of Obstetrics and Gynecology					2015	2

小計  
10小計  
10

NO	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名	巻	号	開始頁	終了頁	発行年月	
									西暦	月
66	Tomita Y	病理・細胞診断科	Pancreatic Fatty Degeneration and Fibrosis as Predisposing Factors for the Development of Pancreatic Ductal Adenocarcinoma.	Pancreas	e-pub				2014	7
67	Ioka T	検診部	Efficacy and safety of axitinib in combination with gemcitabine in advanced pancreatic cancer: subgroup analyses by region, including Japan, from the global randomized Phase III trial	JJCO(Japanes Journal of Clinical Oncology)			e-pub		2015	2
68	Ito Y	がん予防情報センター	Long-term survival and conditional survival of cancer patients in Japan using population-based cancer registry data	Cancer Sci	105	11	1480	1486	2014	11
69	Miyashiro I	がん予防情報センター	High false-negative proportion of intraoperative histological examination as a serious problem for clinical application of sentinel node biopsy for early gastric cancer: final results of the Japan Clinical Oncology Group multicenter trial JCOG0302	Gastric Cancer	17	2	316	323	2014	4
70	Tabuchi T	がん予防情報センター	Individualized and institutionalized residential place-based discrimination and self-rated health: a cross-sectional study of the working-age general population in Osaka city, Japan.	BMC Public Health	14	1	449		2014	5
71	Tabuchi T	がん予防情報センター	Determinants of participation in prostate cancer screening: a simple analytical framework to account for healthy-user bias	Cancer Sci	106	1	108	114	2015	1
72	Tabuchi T	がん予防情報センター	Maternal and paternal indoor or outdoor smoking and the risk of asthma in their children: A nationwide prospective birth cohort study.	Drug Alcohol Depend	147C		103	108	2015	1
73	Tabuchi T	がん予防情報センター	Are secondhand smoke-related diseases of children associated with parental smoking cessation? Determinants of parental smoking cessation in a population-based cohort study	Prev Med	73C		81	87	2015	2

小計  
10

計  
73

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。

3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 倫理審査委員会の目的や委員構成及び会議の開催要件、迅速審査、審査結果の報告手続きなどを定めている。	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年4回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 利益相反の定義、職員からの申告、利益相反委員会の運営、規則に違反した場合の措置などを定めている。	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年1回

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年2回
・ 研修の主な内容 臨床研究のデザインとデータ解析（平成26年7月15日実施） 「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」と医療機関に求められること 「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」施行に向けての医療機関の取組み （平成27年2月9日実施）	

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

【研修について】

研修を行うにあたり、病院として提供しなければならないことは、「①問題に直面して学ぶ必要のある環境（つまり、多数の症例）、②自分や同僚、上級者から自由に学べる環境、③学んだことが直ちに行える、あるいは応用できる環境、④尊敬できる上級者がそばにいて、それを真似ることができる環境」と考えており、「勤務の中でごく自然に知識や技術が学習できる環境」づくりを心掛けている。

また、「知識や技術の学習」と同時に「問題解決能力」の養成も不可欠であるが、当センターは病院の性格上、診断や治療が困難な症例を診療する機会が多いことが特徴であり「問題解決能力」のトレーニングにも適していると考えている。

現在ではインフォームドコンセントに基づいた医療を行うことが必須である。これには知識や技術の他に、科学的思考に基づく情報（事実）の収集と分析、さらにその結果を論理的に説明できる能力が必要となる。これは医療安全だけでなく、長い臨床医としてのキャリアパスから考えても非常に重要なことと考えている。

当センターでは日常臨床や学会発表の場を通じてこれらのスキルが十二分に習得できるプログラムを設定している。

【研修プログラム】

各診療科において、2年間の初期臨床研修を終了し、後期臨床研修を予定しているものを対象とするプログラムと、後期臨床研修中あるいは修了者またはそれに相当する学識を有する者を対象としたプログラムを作成している。

目的は、各診療分野での診療・研究を行う上で必要な高度な専門的知識と技術を習得するとともに、学会、論文発表などの学術面での研修を行うことである。

希望者には、臓器を絞ったコースの設定も行っている。

2 研修の実績

研修医の人数	37.0人
--------	-------

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
石原 立	消化管内科	主任部長	23年	
片山 和宏	肝胆膵内科	副院長	34年	
今村 文生	呼吸器内科	主任部長	31年	
矢野 雅彦	消化器外科	副院長	34年	
東山 聖彦	呼吸器外科	副院長	35年	
玉木 康博	乳腺・内分泌外科	副院長	34年	
和田 信	心療・緩和科	部長	23年	腫瘍精神科
荒木 信人	整形外科	主任部長	29年	
木下 学	脳神経外科	医長	15年	
上浦 祥司	婦人科	主任部長	32年	
藤井 隆	耳鼻咽喉科	主任部長	29年	
中西 克之	放射線診断科	主任部長	29年	
手島 昭樹	放射線治療科	主任部長	35年	
谷上 博信	麻酔科	主任部長	29年	
今村 文生	臨床腫瘍科	部長	31年	
富田 裕彦	病理・細胞診断科	主任部長	29年	
石川 淳	血液・化学療法科	主任部長	29年	
向井 幹夫	循環器内科	主任部長	31年	
山崎 知行	臨床検査科	主任部長	29年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
・ 研修の主な内容 ・ 研修の期間・実施回数 ・ 研修の参加人数
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
・ 研修の主な内容 ・ 研修の期間・実施回数 ・ 研修の参加人数
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
各診療科、看護部、薬局、検査科などで、他の医療機関の医療従事者の研修や見学を行っている。 また、国内だけでなく外国人の研修・見学の受け入れも行っている。  【一例】  ① 緩和ケア研修 平成26年7月5日～6日                      マイドーム大阪                      参加                      31名  ② 大阪府在宅緩和ケア地域連携研修会 平成26年11月30日                      大阪府立成人病センター                      大講堂  参加                      79名  ③ 緩和ケアチーム研修会 平成27年1月17日                      ドーンセンター                      参加                      18チーム                      54名

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

## (様式第 5)

## 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 ② 現状
管理責任者氏名	病院長 左近 賢人
管理担当者氏名	総務・人事マネージャー 河村 徳次、経営企画マネージャー 田中 卓 薬局長 福島 宣久、医療情報部長 松永 隆、 放射線主任部長 中西 克之

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、 手術記録、看護記録、検査所見記録、 エックス線写真、紹介状、退院した患 者に係る入院期間中の診療経過の要約 及び入院診療計画書		医療情報部、中 央手術室、看護 部、放射線診断 科、各診療科、 病歴管理室	カルテ等病歴資料は、外来・入院別 に一患者一カルテ方式として、一つ のID番号により病歴管理室で集 中管理を行っている。 エックス線写真は、放射線診断科で 集中管理をしている。 その他、電子カルテシステムにもデ ータが保存されており、医療情報部 が管理している。
病院の管理 及び運営に 関する諸記 録	従業者数を明らかにする帳 簿	総務・人事G	人事管理システムで保管
	高度の医療の提供の実績	医療情報部	コンピューター管理他
	高度の医療技術の開発及び 評価の実績	臨床研究セン ター	年度毎にファイルに綴じて保管
	高度の医療の研修の実績	総務・人事G	年度毎にファイルに綴じて保管
	閲覧実績	医事G	年度毎にファイルに綴じて保管
	紹介患者に対する医療提供 の実績	医事G	地域連携情報をファイルに綴じて 保管
	入院患者数、外来患者及び 調剤の数を明らかにする帳 簿	経営企画G 薬局	診療情報をファイルに綴じて保管 調剤情報をファイルに綴じて保管
第規 一則 号第 一 掲条 げの る十 体一 制第 の一 確項 保各 の号 状及 況び 第九 条の	医療に係る安全管理 のための指針の整備状 況	医療安全管理 部門	ファイルに綴じて保管
	医療に係る安全管理 のための委員会の開催 状況	医療安全管理 部門	年度毎にファイルに綴じて保管
	医療に係る安全管理 のための職員研修の実 施状況	医療安全管理 部門	年度毎にファイルに綴じて保管
	医療機関内における 事故報告等の医療に係 る安全の確保を目的と した改善のための方策 の状況	医療安全管理 部門	年度毎にファイルに綴じて保管
	専任の医療に係る安 全管理を行う者の配置 状況	医療安全管理 部門	ファイルに綴じて保管
	専任の院内感染対策 を行う者の配置状況	感染対策室	ファイルに綴じて保管



	二十第一項	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全管理部門	ファイルに綴じて保管
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	患者総合相談室	ファイルに綴じて保管

		保管場所		管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一一条の十一第一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	感染対策室	ファイルに綴じて保管
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染対策室	年度毎にファイルに綴じて保管
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染対策室	年度毎にファイルに綴じて保管
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染対策室	年度毎にファイルに綴じて保管
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬局	ファイルに綴じて保管
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬局	年度毎にファイルに綴じて保管
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬局	年度毎にファイルに綴じて保管
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬局	年度毎にファイルに綴じて保管
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	副院長室	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	C E 室	年度毎にファイルに綴じて保管
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	C E 室	年度毎にファイルに綴じて保管
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	C E 室	年度毎にファイルに綴じて保管		

				【診療録の病院外への持ち出し】 診療録の病院外への持ち出しは 認めていない。
--	--	--	--	--

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状	
閲覧責任者氏名	病院長 左近 賢人		
閲覧担当者氏名	医療情報部主任部長 松永 隆 医事総括 本城 孝一郎		
閲覧の求めに応じる場所	(窓口) 医事グループ (閲覧場所) 医療情報部		
閲覧の手続の概要 医事グループあてに閲覧申請を行い、医療情報部で記録を確認し、医療情報部で閲覧する。			

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件	
閲覧者別	医 師	延	0	件
	歯 科 医 師	延	0	件
	国	延	0	件
	地方公共団体	延	0	件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第 6)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
・ 指針の主な内容： 医療安全管理体制、医療安全研修に関する基本方針、インシデントの報告、医療事故への適切な対応、医療従事者と患者の情報共有、患者からの相談への対応、医療安全管理マニュアルの作成・更新、医療安全管理に関する指針の公開	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 1 3 回
・ 活動の主な内容： 医療事故調査委員会の設置。 医療事故・インシデント等が発生した場合の情報収集及び対応の検討。 重大な医療事故発生時の速やかな発生原因の分析・再発防止策の立案。 病院機構本部・日本医療機能評価機構等への報告。 医療安全管理マニュアル等の作成・更新。 医療安全に関する職員の教育及び研修の企画・運営・評価。 医薬品に係る安全管理、医療機器の保守点検・安全使用に関すること。	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 3 1 回
・ 研修の主な内容： 全職員対象第1回研修「みんなで取り組む感染対策と医療安全」、第2回「1. CPR委員会からの報告2. がん救急：患者急変時にどう対応するかーICLSを中心にー」、第3回「医療チームの安全を支えるノンテクニカルスキル～スピークアップとリーダーシップ～」 5センター合同研修「医療コンフリクトマネジメント研修会」「新規採用者BLS研修」 「人工呼吸器・心電図モニター取扱い研修」「医薬品安全研修」「BLS研修」「ICLS研修」 「病棟婦研修」「新規採用転倒転落」「新規採用安全管理について」など	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 頭部打撲初期対応フローチャート作成およびマニュアル改訂 三方活栓・シユアプラグ誤操作の事例より注意喚起 ジャクソンリースの回路について 筋弛緩剤・鎮静剤等の取り扱いについて調査と通知 P I C C 挿入後の管理について 病院全体でM&Mカンファレンスの実施 インシデント入力・共有に向けてのインフォメーション ・ CPR報告書の改訂 ・ 骨転移注意喚起レクチャー	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 ( 1 名 ) ・ 無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 ( 1 名 ) ・ 無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有・無
・ 所属職員： 専任 ( 1 ) 名 兼任 ( 9 ) 名 ・ 活動の主な内容： インシデント報告書の分析、再発防止策の策定及び職員に周知。 事故発生時の対応状況について確認と指導。医療安全管理委員会の事務局。 担当医療安全管理者会議の企画・運営。医療安全研修の企画・実施・評価	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有・無

(様式第 6)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>院内感染防止に係る基本的な考え方、委員会等組織に関する基本的事項、職員研修に関する基本方針、院内感染報告制度、院内感染発生時の対応、指針の公開</p>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>細菌分離状況および耐性菌発生状況の把握、サーベイランスデータ報告（手術部位感染、中心静脈内留置カテーテル関連血流感染、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌、多剤耐性緑膿菌、基質特異性拡張型βラクタマーゼ産生菌などの多剤耐性菌検出状況）重症感染症発生状況の把握、抗MRSA・カルバペネム系抗生剤使用状況の把握、アウトブレイク予想および環境調査時の指揮指導および改善策の実施状況についての調査と見直し</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 11 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>標準予防策、適切な防護具着脱の演習、手洗い演習、安全機能付き翼状針・留置針の取り扱いの演習、N95マスクの正しい装着方法、感染経路別予防策、病院清掃について、手術部位感染について、インフルエンザについて、結核菌への曝露リスク、MRSA感染症に関する最近の話題</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>所属ごとに担当感染対策推進者（リンクドクター、リンクナース）を任命し、情報伝達および現場からの報告があがるようにしている。</p>	

(様式第 6)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>H26. 5. 28 造影剤の適正使用について 154人</p> <p>H26. 11. 10 麻薬の取り扱いについて 94名</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 (有・無)</p> <p>・ 業務の主な内容：</p> <p>医薬品の採用、購入、管理。 各部署への医薬品の供給。 各部署での医薬品の管理と使用 医薬品の廃棄 他の医療施設との連携 事故対応時の対応 教育・研修 管理の必要な薬剤のマニュアル(麻薬、サレド、レブラミド、ノルスパン、持参薬、 特定生物由来製品)</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無)</p> <p>各社MR、PMDAメディアナビからの情報収集 情報の周知：①院内LANによるメール送信 ②薬事ニュース等による紙メディアでの情報提供</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>医薬品安全管理委員会の開催 医療安全管理委員会との連携 医薬品安全管理委員会を医療安全管理委員会の連携委員会として位置づけ、医薬品安全管理責任者および薬局長は両委員会の委員を兼ね、医療安全管理者は医薬品安全管理委員会の委員を兼ねる。医療安全管理委員会において医薬品安全管理委員会の報告を行うなど、厳密な連携を図っている。</p>	

(様式第 6)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 8 回
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>○新規導入医療機器については、使用予定者に対する研修を導入時に実施（随時）（H26年度実績6回）。</li><li>○それとは別に、生命維持管理装置を中心とした、病棟やICUなどで使用頻度の高い機器の研修を実施（年8回）。</li><li>○研修内容については、当該医療機器の有効性や安全性、使用方法、保守点検、トラブル対応などを含む</li></ul></li></ul>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 計画の策定 （有・無）</li><li>・ 保守点検の主な内容： 生命維持管理装置はもちろん、電気メスをはじめとする高エネルギー装置や、病棟使用頻度の高い輸液・シリンジポンプなどそれぞれの機器に合わせた点検方法を設定し、保守点検計画に則ったスケジュールにて実施している。</li></ul>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 （有・無）</li><li>・ その他の改善のための方策の主な内容： 主に医薬品医療機器総合機構の供する同情報提供ホームページやメール配信サービスなどを利用し、併せて医療機器メーカーからの提供情報も収集して、該当機器については確認及び部署への連絡を実施している。</li></ul>	